

統合報告書



社会福祉法人
ライフの学校

2026



2026

統合報告書

ライフの学校は、福祉施設を地域にひらき、
さまざまな人々が集う「学びあい」の拠点づくりに
取り組む社会福祉法人です。

2007年に設立し、2020年には法人名を改称。
現在、20年目を迎えました。

本報告書では、当法人の一年間を振り返りながら、
次年度以降に取り組む事業やケアの方針を共有し、
対話を深めていくことを目的としています。

これからも、かかわってくださるみなさまとともに
歩みを進めていきたいと考えています。

もくじ

02	ライフの学校とは
06	数字で見る2025年度
08	ニュース
12	基本情報
18	財務情報
21	中期経営方針
23	スタッフインタビュー
30	ご寄付のお願い
32	お知らせ

本報告書について
・対象期間：2025年度（2025年4月1日～26年3月31日）
・各事業所名は、適宜省略して記載しています。
・施設の利用者を「パートナー」と呼んでいます。

〔表紙／裏表紙〕幸町キャンパス 撮影：植本一子

ライフの学校とは

ミッション

支えあって、学びあって、 すべての人の「人生」を豊かに

ケアのなかには、「いのち」や「暮らし」や「生きる」についてのたくさんの学びがあります。
日々、人生の先輩であるお年寄りや障害のある人との対話から「いのち」や「生きる」が学べます。
週末にはこどもをはじめ地域の人たちが参加する「暮らし」を学ぶプログラムがあります。
支えあって学びあうって、楽しい。
そのことに気づいていくことで、人と人がやさしく支えあえる社会にしていきたいと思っています。

施設紹介

現在、宮城県仙台市に6つのキャンパスと畑があります。

萩の風キャンパス

- 特別養護老人ホーム
- 地域密着型特別養護老人ホーム
- 共生型デイサービスセンター
- 相談支援センター
- 居住支援センター(住宅確保要配慮者居住支援事業)
- 嫁入りの庭
- ライフの図書館
- 学習支援教室
- 駄菓子屋「かみふうせん」
- こども食堂「おかえり」
- ウィークエンドプログラム
- サポートセンター(法人本部)

六郷キャンパス

- 地域密着型特別養護老人ホーム
- 共生型看護多機能センター
- 保育園(事業所内保育)
- 給食センター
- 地域食堂
- 自習室
- 駄菓子屋

幸町キャンパス

- グループホーム
- 共生型多機能センター
- 放課後デイサービスセンター

霞目キャンパス

- 就労支援センター ウェルカム! カフェ
(就労継続支援B型)
- シェアハウス(職員宿舎)

上飯田キャンパス

- 居宅介護支援センター
- 訪問介護支援センター(休止中)

新田キャンパス

- ゆとりの医科歯科クリニック

みんなの畑

行動規範

人にやさしく 生きる

誰に対しても感謝の心で接し、
謙虚な姿勢を大切にしよう。
お互いに心から認めあい、
何がその人のためになるかを
常に考えて行動しよう。

ともに学び 生きる

誠実に向きあい、
すべての人の尊厳を
大切にしよう。
すべての人の自己実現のために、
勇気をもって挑戦しよう。

ともに^{たの}愉しく 生きる

笑顔で元気なあいさつを基本に、
ユーモアを大切にしよう。
一人ひとりが全力をつくし、
最後まで結果に責任をもとう。



役員紹介



1 田中伸弥 たなか・のぶや

理事長／統括施設長

秋田県出身。大学卒業後、社会福祉法人が運営する介護老人保健施設に介護主任として3年半従事。その後、医療法人社団が運営する病院併設の介護老人保健施設、デイケアで相談員などを経験したのち2011年、当法人の特別養護老人ホーム萩の風（現・萩の風キャンパス）施設長に就任。2013年常務理事兼施設長に就任。2019年より現職。

理事会出席回数：10/10（100％） 役員報酬：有 職制上の給与：有

3 岡本雄輔 おかもと・ゆうすけ

理事／サポートセンター長／六郷キャンパス 施設長

青森県出身。大学卒業後、社会福祉法人が運営する広域型特別養護老人ホームに介護職として2年、小規模多機能型居宅介護に4年、地域密着型特別養護老人ホームに6年従事。2020年、当法人に入職。六郷キャンパス開設準備室などを経て2024年より施設長に就任。2025年より現職。

理事会出席回数：10/10（100％） 役員報酬：有 職制上の給与：有

5 小丸直己 こまる・なおき

理事／上飯田キャンパス 施設長

宮城県出身。大学卒業後、社会福祉法人が運営する介護老人保健施設に入職し、介護支援専門員資格を取得。その後、医療法人社団が運営する法人で2年ほど居宅ケアマネージャーとして従事。2014年、当法人に入職。居宅介護支援センターの開設準備を行い、2015年開設。2021年より現職。

理事会出席回数：10/10（100％） 役員報酬：有 職制上の給与：有

7 久慈昭子 くじ・あきこ（非常勤）

監事／久慈昭子税理士事務所 代表税理士

宮城県出身。大学卒業後、社会福祉法人が運営する介護老人保健施設にて、会計主任として従事。その後、税理士法人勤務を経て2019年独立、久慈昭子税理士事務所を開業。2016年より当法人の監事を務める。

理事会出席回数：10/10（100％） 役員報酬：有 職制上の給与：無

2 菅原篤人 すがわら・あつと

常務理事（業務執行理事）／萩の風キャンパス 施設長

宮城県出身。大学卒業後、社会福祉法人が運営する介護老人保健施設に介護職として7年、支援相談員として3年従事。2013年、当法人に入職。生活相談員として従事し、2016年理事に就任。2017年常務理事に就任。2020年より現職。

理事会出席回数：10/10（100％） 役員報酬：有 職制上の給与：有

4 渡辺 勇 わたなべ・いさむ

理事／地域密着型特別養護老人ホーム六郷キャンパス 管理者

秋田県出身。大学卒業後、介護老人保健施設に介護職として6年半従事ののち介護老人福祉施設に介護職として1年半従事。2008年、当法人に入職。特別養護老人ホーム萩の風（現・萩の風キャンパス）開設準備より携わる。施設ケアマネージャーとして7年従事し、2016年より生活相談員。2020年より現職。

理事会出席回数：10/10（100％） 役員報酬：有 職制上の給与：有

6 畠山待子 はたけやま・まちこ

理事／就労支援センター 管理者／相談支援センター 管理者

秋田県出身。専門学校卒業後、病院のケースワーカーとして3年半、社会福祉法人が運営するデイサービス・特別養護老人ホームに生活相談員兼介護支援専門員として15年従事。2019年、当法人に入職。2021年より現職。

理事会出席回数：10/10（100％） 役員報酬：有 職制上の給与：有

8 早坂勇人 はやさか・ゆうと（非常勤）

監事／社会福祉法人チャレンジドらいふ 副理事長

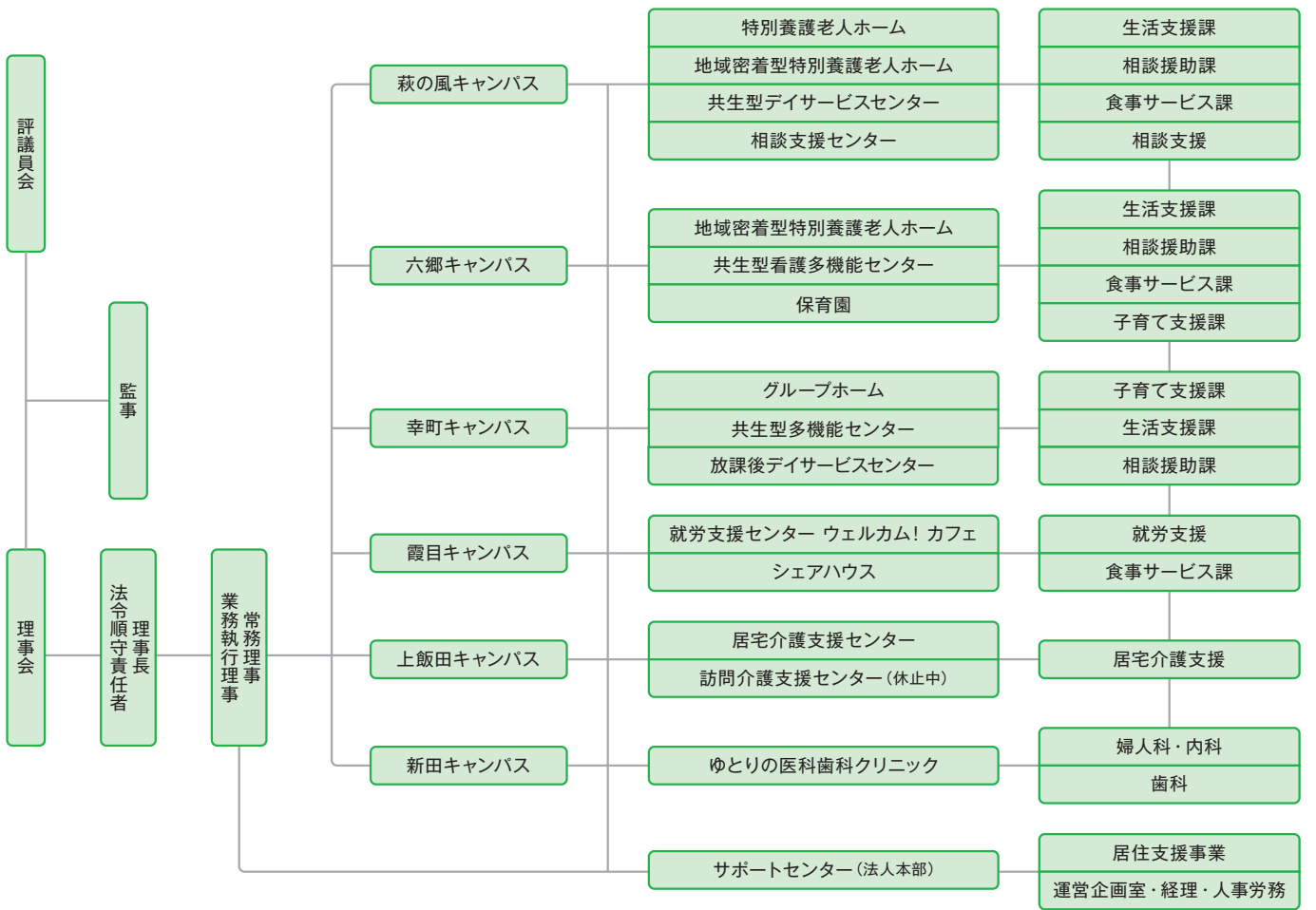
宮城県出身。アメリカの公立大学を中退。ホテルサービス勤務を経て、2010年より社会福祉法人やまとみらい福祉会理事兼事務局長。その後、特別養護老人ホーム施設長、保育園設立、障害福祉事業設立を経て、2023年に退職。同年より現職となりソーシャルファームや障害福祉事業を設立。2022年より当法人の監事を務める。

理事会出席回数：10/10（100％） 役員報酬：有 職制上の給与：無

法人概要

法人名称 所在地 電話	社会福祉法人ライフの学校 宮城県仙台市若林区上飯田字天神1-1 022-369-3907
役員	理事長：田中伸弥 常務理事（業務執行理事）：菅原篤人 理事：岡本雄輔 渡辺 勇 小丸直己 畠山待子 監事：久慈昭子（非常勤） 早坂勇人（非常勤） 評議員：日野 尊 千葉幸悦 庄子清典 穀田雄一 渡辺勝幸 福井大輔 白鳥正幸 評議員選任解任委員会：高田洋樹 久慈昭子
法律顧問 社会福祉法人会計顧問	官澤綜合法律事務所 辻・本郷税理士法人

組織図



数字で見る2025年度

法人

サービス活動収益

10億円

2年前に開設した六郷キャンパスの稼働率安定や新規事業開始により、前年度比108%となっています。

理事会の開催回数

10回

10回のうち、4回が対面による開催、6回は書面決議による開催となりました。

役員の平均年齢

45.3歳

役員紹介のプロフィールはp.04に掲載しています。

パートナー（利用者）

長期入居パートナーの数

98人

前年度と同じ人数となります。

施設での看取りの割合

50%

78.6%

37.5%

萩の風キャンパス
特別養護老人ホーム

萩の風キャンパス
地域密着型
特別養護老人ホーム

六郷キャンパス
地域密着型
特別養護老人ホーム

原則は施設でお看取りをしています。そのほか医療的なケアが必要となり病院へ移ったケース、また家族の希望により他施設への移動をしたケースがありました。

スタッフ

スタッフ数

187人

幸町キャンパスの新規事業開始により、前年度より11人増えました。

スタッフの平均年齢

38.9歳

新規事業開始のためキャリア（中途）採用が増えたこともあり、前年度より平均年齢が2.4歳ほど上がりました。

有資格者の数

134人

主たる事業が高齢福祉事業のため、有資格者のうち介護福祉士が占める割合が56%でした。

介護福祉士

56%

保育士

11%

社会福祉士

19%

精神保健福祉士

9%

看護師

5%

外国籍スタッフの数

30人

外国籍スタッフが活躍できる環境をつくる
ことが、すべてのスタッフにとって働きや
すい場につながると考えています。

障害者の雇用人数

2.5人

2025年度、就労移行で新たに1人を採用
していますが、次年度以降はさらに積極的
な採用を計画しています。

地域とのかかわり

イベントの参加者数

767人

ウィークエンドプログラム
53%

こども食堂
47%

駄菓子屋の利用者数

3,542人

萩の風キャンパス
3,065人
六郷キャンパス
477人

駄菓子屋のレジ業務は、共生型デイサービ
スや就労支援に通うパートナーが担当して
います。利用者数は、こども、高齢者、障
害のある人との交流機会の創出数につな
がり、多世代交流の推進状況を表しています。

学習支援教室の利用者数

309人

登録者数は仙台市立沖野小学校、沖野東
小学校あわせて11人です。基礎学習の支援
をするとともに、こどもの居場所になるこ
とを目指しています。

居住支援の相談件数

107件

物件契約数
16%

物件未契約数
84%

相談件数は前年度より33件増え、物件契
約数も10件増えました。ただ、一般賃貸
住宅の確保が難しい状況は続いています。

主なメディア掲載実績

● 会報『経営協』（全国社会福祉法人経営者協議会、2025年4月号）
「法人コンセプトを『いのち・暮らし・生きる』を学ぶオープンキャンパ
スとして一新。学びあうことで、他者を尊重できる社会へ」

● 新聞『河北新報』（河北新報社、2025年11月27日）
「『平時のつながり大切』『損得だけじゃない』経営者の視点 防災語る」

● スペシャルブックレット『anan』×『POPEYE』×『こここ』（マガジンハウス、2025年10月8日）
「地域に福祉をひらく新建築 ライフの学校『六郷キャンパス』」

● 新聞『河北新報』『河北新報オンライン』（河北新報社、2025年12月19日）
「介護現場 貴重な戦力 仙台・外国人労働者」
<https://kahoku.news/articles/20251218khn000065.html> [2026年5月31日最終閲覧]

06

数字で見る 2025年度

07

共生型多機能センターと
放課後デイサービスセンターを開設しました！

NEWS 1

2026年2月、幸町キャンパスに共生型多機能センターと放課後デイサービスセンターを開設しました。これまで若林区を拠点に事業を行ってきたライフの学校が、青葉区にグループホームを開設して4年。徐々に地域の方々との関係が育まれ、在宅サービスへのニーズに応えるかたちで新たな事業展開を行いました。

1階では、通い(デイサービス)・宿泊(ショートステイ)・訪問介護によって自宅での暮らしを支える小規模多機能型居宅介護を、2階では障害のある小学校1年生から高校3年生までを対象に放課後等デイサービスを行っています。

学校終わりの子どもたちがやってくると、「おかえり〜!」と声をかけて、手を振って迎えることが日課となっています。子どもたちはおやつを食べたあとに1階へ降りていき、お年寄り



と一緒にスタッフお手製のゲームを楽しむことも。隣にあるグループホームに暮らすパートナー(利用者)も互に行き来し、日常的に交流しています。

どの人にとっても、家や学校とは別の安心できる「第三の居場所」になれるよう、一人ひとりと向き合い、環境づくりを進めていきます。

NEWS 2



六郷キャンパス(以下、六郷)が、公益財団法人日本デザイン振興会が主催する2025年度グッドデザイン賞にて、グッドフォーカス賞[防災・復興デザイン]を受賞しました！

六郷は、東日本大震災の際に津波の水際線となった土地に建てられた複合型施設(建築設計:tomito architecture+川見拓也建築設計事務所)。計画段階から「地域防災拠点」として、非

グッドデザイン賞を受賞しました！

常時には地域住民の避難や支援拠点として機能することを目標にしてきました。津波災害対策として、垂直避難のための広い避難スペースを設け、非常用自家発電設備の整備も進めています。

審査委員からは「いわゆる福祉施設は、制度的な制約や運営上の困難さから、従来は近隣地域や他施設とは隔絶された単一機能に特化されてきた。そのことが施設の閉鎖性にもつながっていたが、ここではまったく逆の、さまざまな施設群をあえて混ぜ合わせ、それらの相乗効果によって、高齢者にとっても、また地域住民にとっても幸せな場をつくることにチャレンジしている(中略)。今後の福祉施設のモデルにもなってほしい計画である」というコメントをいただきました。

＊グッドデザイン賞のウェブサイトにて、プレゼンテーション(約4分)などをご覧ください
受賞ギャラリー 2025 六郷キャンパス
<https://www.g-mark.org/gallery/winners/33800>

NEWS 3

海外から8名のスタッフを採用しました。

2025年度は、インド、インドネシア、ミャンマーにて現地で採用面接を行いました。日本で働くことに人生をかけている候補者の合否を決めることはとても難しい判断でしたが、インドより2名(特定技能)、インドネシアより4名(特定技能)、ミャンマーより2名(留学生)を採用しました。

ミャンマーは、新型コロナウイルスや軍事クーデターによる影響が現在も色濃く残っています。「将来の人生を考えたとき、ミャンマーでは選択肢があまりに少なすぎる」という言葉が印象的でした。どの地域でも、採用が決まると祈りを捧げて感謝したり、よろこびを噛み締めたり、涙を流してよろこぶ学生や先生の姿を目の当たりにしました。働けることに感謝するかれらの姿勢に背筋が伸びると同時に、改めて受け入れ側の責任を強く感じた経験でした。

全日程には採用担当に加え、入職後の手続きを支えるサポー



トセンターのスタッフも参加しています。またインドには、前年度のクレドレポート大賞(日々の出来事をスタッフ内で共有するレポートの優秀者に贈られる賞)を受賞したスタッフも同行。顔の見える担当者が責任をもって入職後もサポートすることで、安心して働ける関係性を目指しています。

NEWS 4

空家等管理活用支援法人の指定を受けました。



「空家等対策の推進に関する特別措置法」に基づき、仙台市より「空家等管理活用支援法人」として指定を受け、空き家に関する課題を抱える人への伴走型支援をはじめました。相続問題、生活困窮、家族関係の断絶、海外在住親族との連絡不通など、空き家の背景にある複雑な事情を考慮しながら、売却、賃貸、解体、管理・活用などの選択肢を提案。ご本人が納得して決めることができるプロセスを大切にしています。

2025年には、デイサービスに通うパートナー(利用者)より亡父名義の空き家に関する行政通知が繰り返し届いて困っているという相談を受けました。確認すると、管理不全空き家(管理不十分な空き家)となっており、相続関係は未整理。相続人と思われる弟は長年行方不明で、相談者であるパートナーは生活保護を受給しているため、費用負担は難しい状況でした。そこで、司法書士や区役所と連携し、失踪宣告の申し立てから相続登記、不動産売却、近隣対応、生活保護法第63条に基づく返還金の調整まで、さまざまな制度を横断し、一体的な支援を行いました。

現場では「どこに相談すればいいかわからなかった」という声が多く聞かれます。早期に判断・行動できるよう、専門業者や行政窓口の活用、換気や清掃などの簡易的な管理といった、小さな一歩から寄り添う支援を行っています。

NEWS 5

障害のあるMさんのケアマネジメントに奔走しました。

上飯田キャンパスにある居宅介護支援センターでは、一人ひとりに寄り添う支援を実現するために、複数の制度や機関と連携したケアマネジメントを行っています。

2025年は、左上肢麻痺で自閉症と知的障害があるMさんの暮らしを支えるために、ケアマネジャーが奔走しました。Mさんは80代の父親と二人暮らしで、ご本人の収入は就労支援による月5,000円でした。そこへ父親の末期がんが見つかり、緊急入院することに。そこで当センターでは、萩の風キャンパスで緊急のショートステイを利用しながら、区役所保護課や病院、地域包括支援センター、相談支援専門員と連携し、入所できる施設を探すと同時に、入所日に保護申請を行うことで生活保護を適用できるように動きました。

父親はかつて何度か保護課に相談していましたが、年金受給を理由に生活保護が却下されていました。今回、末期がんの診断により、Mさんの生活が厳しくなる事情を説明したところ受



理されました。父親は、Mさんが入所してから14か月後に息を引き取られましたが、残された息子の暮らしの不安が解消されたことに安堵あんどされていました。

2050年には単独世帯の高齢者が1,084万人まで増加する見込みです（令和7年版高齢社会白書）。身寄りのない方が増えていくなかで、必要な支援のかたちを考え続けていきます。

NEWS 6

Nさんのお看取りから納骨までを行いました。



2025年7月、萩の風キャンパスにある特別養護老人ホームではNさんのお看取りを行いました。

Nさんは、約3年前に配偶者を自宅で看取ったあと、利用していた施設の継続利用に必要な保証人を失い、賃貸アパートの解約や残置物の片付けが困難な状況になりました。これをきっかけにライフの学校が支援に入り、生活課題を整理しながら、萩の風キャンパスへの入居につなげました。

「最期は寂しくないように」というご本人の希望を受け止め、ともに暮らしてきた方々やスタッフが順番に見守りながら、静かであたたかな時間のなかでお看取りを行いました。葬儀は施設内で執り行い、仙台市の配慮によって、配偶者が眠る共同墓地に納骨。身寄りがなく保証人が不在のなか、住居の整理や新たな居場所の確保、看取り、葬送、納骨まで、制度だけではカバーし切れない課題に対し、多職種の専門家や行政と連携しながら支援を行いました。

ライフの学校では、「その人の人生をどう支え切るか」を常に問い続けています。制度やサービスだけでは行き届かない生活課題や感情に寄り添いながら、介護サービスにとどまらず、お亡くなりになったあとの対応まで切れ目なく支える「その人の人生に伴走する支援」を続けていきます。

ライフの学校では、「その人の人生をどう支え切るか」を常に問い続けています。制度やサービスだけでは行き届かない生活課題や感情に寄り添いながら、介護サービスにとどまらず、お亡くなりになったあとの対応まで切れ目なく支える「その人の人生に伴走する支援」を続けていきます。

NEWS 7

霞目キャンパスにて給食の提供をはじめました。



霞目キャンパス（以下、霞目）では、就労支援センターのパートナー（利用者）に対して、霞目にあるウェルカム！カフェで調理した給食の提供を開始しました。これまではパートナーから料金を徴収し、それぞれの作業所で昼食を提供していましたが、霞目で給食を開始したことにより、「食事提供体制加算」（施設が食事を提供する際に国から支払われる手当）の算定が可能になりました。その結果、パートナーの昼食費の負担が軽減されるとともに、スタッフの集金業務などの負担軽減にもつながっています。

仙台市では、事業所（霞目）から施設外の就労先（ほかのキャンパス）に給食を配送する取り組みは初めての事例だとのこと。調理時間や配送方法など、試行錯誤を重ねながら準備を進めてきました。

食事提供体制加算は、管理栄養士が作成した献立で給食を提供することが必須要件となっています。管理栄養士2名がそ

の専門性をいかし、おいしさや栄養バランスにこだわった献立をつくっており、パートナーからは「ボリュームがあって、おいしい」と大好評です。

また、調理には、みんなの畑で育てた野菜を使っています。自分たちで育てた野菜が給食に使われることで、仕事に対する充実感や意欲の向上にもつながっています。

NEWS 8

初めての卒園式を行いました！



2026年3月、2024年に開設した保育園（地域枠のある事業所内保育）で初めての卒園式が行われました。卒園生は7名。入園時は幼かった園児たちも、友達を誘って一緒に遊んだり、率先してスタッフのお手伝いをしたりと、大きくたくましく成長しました。

当日は、園児と保護者が手をつないで入場し、一人ひとりが保育士から卒園証書を受け取る姿に、会場全体があたたかな

空気に包まれました。園児と保護者それぞれから一言ずつあいさつをもらい、「悩みながら子育てをしていたけれど、一緒に悩んでくれるスタッフに支えられた」「働きながら園を利用できたことは、親子の宝物の時間になった」という声がありました。

また、園児の成長を見守ってきた地域密着型特別養護老人ホーム・共生型看護多機能センター・就労支援センターのパートナー（利用者）とスタッフが一緒に、童謡『にじ』の合唱を贈りました。こどもたちがリズムに乗って体を揺らしたり、「きっと明日は いい天気」という歌詞を口ずさんだりする姿も見られました。式の最後には、パートナー全員が花のアーチで花道をつくり、「おめでとう」「がんばってね」と声をかけながら、卒園児を送り出しました。

たくさん泣いて、笑った2年間。これからもいつでも帰ってこられる場所でありたいと思います。みんな、卒園おめでとう！

基本情報

パートナー（利用者）

[高齢福祉]

1 年間稼働率

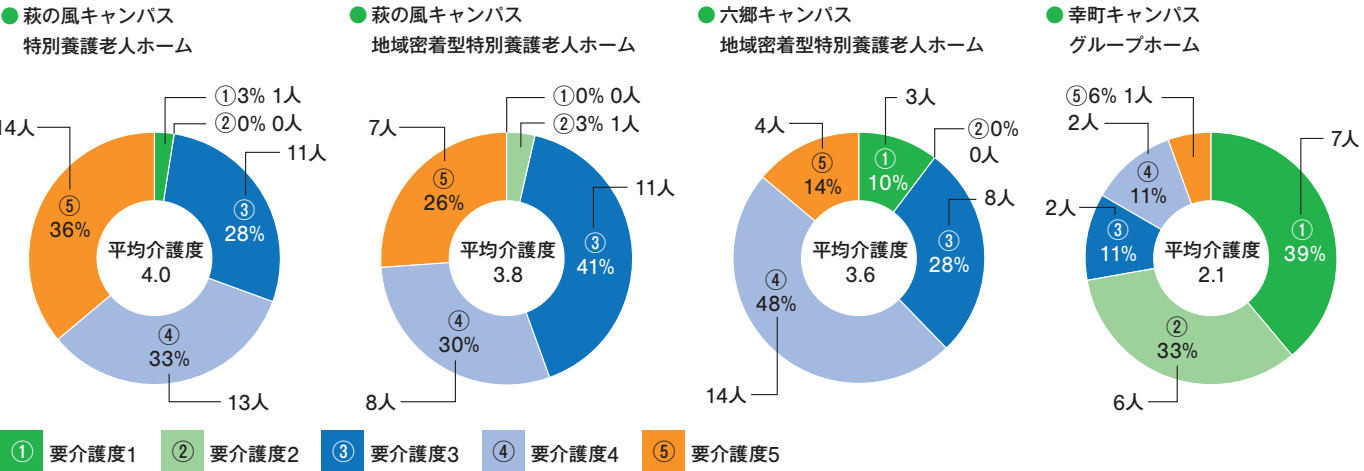
法人全体のベッド稼働率は前年度比2.7%増でした。地域密着型特別養護老人ホームの事業は、萩の風キャンパスにおいて看取りでの退所による稼働率の低下はありましたが、六郷キャンパスの稼働率の増加により、法人全体としては前年度より上昇しています。特別養護老人ホームは全国平均93.6%^{*1}と比較すると、3.3%から4.9%程度高くなっています。

拠点	事業所	ベッド数	年間稼働率
萩の風キャンパス	特別養護老人ホーム	40床	98.5% ^{*2}
	地域密着型特別養護老人ホーム	29床	96.9% ^{*2}
六郷キャンパス	地域密着型特別養護老人ホーム	29床	97.9%
幸町キャンパス	グループホーム	18床	98.0%
法人全体		116床	97.8%

^{*1} 「2024年度 特別養護老人ホームの経営状況について」（独立行政法人福祉医療機構）より。
^{*2} ショートステイ事業の空床利用を含む。

2 特別養護老人ホーム／グループホーム要介護度

法人内施設を比較すると、施設の開設年度が古いほど平均要介護度が高い傾向にあります。グループホームは認知症対応型共同生活介護です。



3 終末期ケアの状況

全国の死亡場所の統計^{*1}によると64.4%の人が病院で亡くなり、老人ホームで死亡する人は12.2%です。ライフの学校では、施設で最期を迎えたい人に対して、その人が大事にしてきた「人」「もの」「こと」を尊重して看取りをする終末期ケアを行っています。2025年度は18人の看取りをしました。

拠点	事業所	看取り介護 加算算定件数	死亡退所者数	死亡場所		看取り率
				施設	その他	
萩の風キャンパス	特別養護老人ホーム	4人	8人	5人	3人	50%
	地域密着型特別養護老人ホーム	11人	14人	13人	1人	78.6%
六郷キャンパス	地域密着型特別養護老人ホーム	3人	8人	3人	5人	37.5%
幸町キャンパス	グループホーム	0人	0人	0人	0人	0%

^{*1} 「2024年度 人口動態調査」（厚生労働省）より。

4 在宅サービス／ショートステイの利用率

萩の風キャンパスの共生型ショートステイは、高齢者利用率が95%以上と非常に高い状況です。また萩の風キャンパスでは、併設する特別養護老人ホームにおいて看取り対応が進んだことに伴い、ショートステイ利用者が長期入所へ移行するケースが増加しました。その結果、ショートステイの利用期間が短縮され、稼働率は前年度比1.8%減となりました。一方、前年度より4.5%増の六郷キャンパスの共生型看護多機能センター、新規開設した幸町キャンパスの共生型多機能センターは利用率に改善の余地があり、今後の重点的課題となっています。

拠点	事業所	高齢者	障害者
萩の風キャンパス	共生型ショートステイ(定員10人)	95.2%	1.6%
	地域密着型特別養護老人ホーム ショートステイ(定員10人)	93.5%	★1
	共生型デイサービスセンター(定員18人)	80.2%	7.7%
六郷キャンパス	共生型看護多機能センター(定員29人)	35.5%	2%
幸町キャンパス	共生型多機能センター(定員29人)	20.6%	0%

★1 萩の風キャンパス地域密着型特別養護老人ホーム ショートステイのみ共生型未指定。

5 居宅介護支援の利用者数

居宅介護支援センターでは、主任介護支援専門員3人、介護支援専門員2人を配置。パートナーができる限り自宅で自立した日常生活を送ることができるよう、本人の心身の状況や環境に応じたケアプランを作成し、各事業者や関係機関との連絡や調整を行っています。

拠点	事業所	要支援	要介護	合計
上飯田キャンパス	居宅介護支援センター	356人	1,599人	1,955人

[障害福祉]

1 就労支援センター（就労継続支援B型）の利用率

就労支援センターでは、さまざまな理由から一般企業などで働くことが難しい人に対し、就労の機会を提供しています。霞目キャンパスの内部就労では飲食、外部就労では萩の風・六郷キャンパスにて清掃や洗濯などの仕事を行っています。2025年度は利用率が増えています。

拠点	事業所	利用率
霞目キャンパス	就労支援センター(定員20人)	77.7%

2 相談支援の利用者数

障害支援区分^{*1}のなかでは区分2と区分3が多く、これは軽度から中度の障害のある人からの相談が多いことを示しています。

拠点	事業所	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	その他 ^{*2}	合計
萩の風キャンパス	相談支援センター	2人	8人	7人	2人	3人	0人	9人	31人

^{*1} 障害のある人が必要とされる標準的な支援の度合いを総合的に示すもの。障害の状態によって1～6段階で区分されており、数字が大きいほど支援が必要。

^{*2} 「その他」は障害支援区分認定の必要のない0～18歳未満で、身体・知的・精神・発達などの障害または難病があり、児童発達支援などのサービスを受けている児童。

[保育]

1 保育園の利用率

事業所内保育（小規模保育事業A型）は、事業所スタッフの勤務形態に応じた柔軟な保育を行う「従業員枠」と、地域の保育ニーズに応える「地域枠」により構成されています。開設2年目にして、予定定員の98%の利用率を達成しました。

拠点	事業所	利用率
六郷キャンパス	保育園(定員19人)	98%

2 保育園の利用者数

定員の98%の利用という、安定した運営基盤を築いています。地域枠の定員数に対して実際の利用者数に差異が生じていますが、従業員枠での利用者数が少ない場合は、地域枠として定員を広げて運営しています。

拠点	事業所	0歳	1歳	2歳	合計
六郷キャンパス	保育園(定員14人)従業員枠	4人	4人	5人	19人
	保育園(定員5人)地域枠	1人	3人	2人	

1 働き方の区分

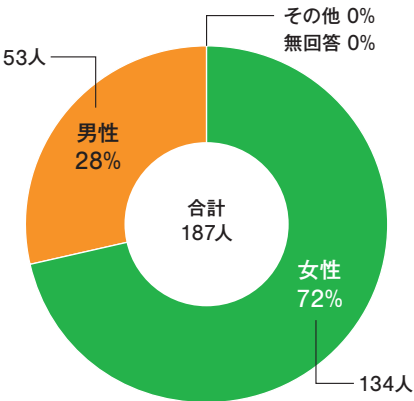
雇用区分は、労働時間と勤務形態の柔軟な組み合わせによって6区分を設けています。ライフイベントにあわせ、年に1回、働き方の区分について意向を確認しています。また、再雇用スタッフを除く全スタッフが無期雇用契約となっています(再雇用スタッフは1年ごとの更新)。

	区分1 (全拠点異動可／変則勤務可)	区分2 (事業所限定／変則勤務不可)	合計
A区分(週40時間)	110人	24人	134人
B区分(週20時間以上40時間未満)	0人	18人	18人
C区分(週30時間未満)	0人	30人	30人
再雇用	2人	3人	5人
合計	112人	75人	187人

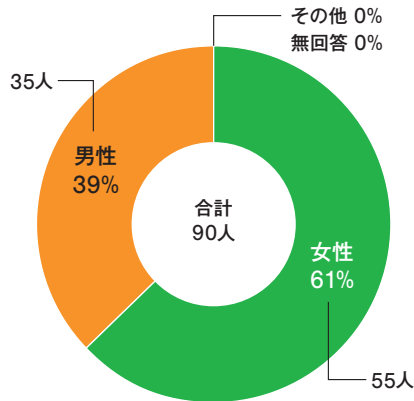
2 ジェンダー構成比

保育園や放課後デイサービスなどの事業は女性スタッフが多く、全体として女性が約7割となっています。

● 全スタッフ



● 介護スタッフ



3 外国籍スタッフの雇用状況

2019年度から外国籍スタッフの採用を行っています。自国の家族を養うために自身のキャリアを切実に考え、日本で働くことを選んだかれらの姿勢に多くのスタッフが刺激を受けており、今後もスタッフ総数に対して15%の雇用を目指していきます。

国籍	在留資格	介護	特定技能	技能実習	特定活動(EPA)	その他(留学生)*1	合計
インド		0人	3人	0人	0人	0人	3人
インドネシア		0人	4人	0人	0人	0人	4人
タイ		0人	0人	0人	0人	3人	3人
ネパール		0人	0人	0人	0人	0人	0人
バングラデシュ		5人	0人	0人	0人	1人	6人
ベトナム		3人	0人	0人	0人	0人	3人
ミャンマー		6人	0人	0人	0人	5人	11人
合計		14人	7人	0人	0人	9人	30人

*1 「その他(留学生)」は日本語学校で1年間日本語を学んだのち介護の専門学校へ入学、その後、介護福祉士の資格取得を目指している学生。

4 平均勤続年数／採用率／離職率

2021年度より新卒採用を積極的に行い、毎年10人ほど採用しています。そのため若い世代のスタッフが多く、勤続年数が短い傾向となっていますが定着もしてきており、徐々に長くなってきています。

● 全スタッフ

	平均勤続年数	採用率*1(全国平均*2)	離職率*1(全国平均*2)
2023年度	3.5年	39.8%(14.4%)	20.9%(15.3%)
2024年度	4.1年	25.2%(14.3%)	20.8%(12.4%)
2025年度	5年	28.2%(－)	24.7%(－)

*1 採用(離職)率の試算方法は次の通り。採用(離職)率＝当該年度の採用(離職)者数÷前年度末日の在籍者数。フルタイムスタッフ(A1区分・A2区分)を対象に算出した。

*2 全国平均は「令和6年度介護労働実態調査結果」(公益財団法人介護労働安定センター)を参照。

● 介護スタッフ

	平均勤続年数	採用率*1(全国平均*2)	離職率*1(全国平均*2)
2023年度	3.6年	7.7%(16.3%)	20%(14.9%)
2024年度	4.5年	28.1%(14.4%)	15.6%(12.8%)
2025年度	5年	29.7%(－)	29.7%(－)

● 新規学卒者の状況

	採用者数	3か月未満 の離職者数	3か月以上6か月未満 の離職数	6か月以上1年未満 の離職者数	1年未満 の離職者数
2023年度	11人	0人	0人	0人	0人
2024年度	10人	1人	0人	0人	0人
2025年度	10人	0人	0人	0人	0人

● 平均勤続年数

	平均勤続年数	平均年齢
介護スタッフ	5年	36歳
看護師	3.2年	42.2歳
生活相談員	7年	33.8歳

	平均勤続年数	平均年齢
介護支援専門員	11.5年	44.1歳
全職種	5年	38.9歳

5 有給休暇等の取得状況

年次有給休暇の取得状況は、全国平均の62.1%*1と比較すると高い傾向にあります。また、育児休業の取得状況も全国平均よりも高い傾向にあります。

● 年次有給休暇の取得状況

	付与人数	付与総日数	取得日数	取得率(前年度)
A区分*2	145人	1,954日	1,355日	69.3%(59.2%)
B区分*2	17人	241日	227日	94.1%(63.7%)
C区分*2	20人	199日	117日	58.7%(48.1%)
法人全体	182人	2,394日	1,699日	70.9%(57%)

*1 全国平均は「令和5年 就労条件総合調査」(厚生労働省)における「年次有給休暇の取得状況」を参照。

*2 就業時間が、A区分は40時間／週、B区分は20時間以上40時間未満／週、C区分は30時間未満／週のスタッフ。

● 育児休業の取得状況

	出産者数 (男性は配偶者)	取得者数	取得率(全国平均*3)
男性	1人	1人	100%(30.1%)
女性	7人	7人	100%(84.1%)

*3 全国平均は「令和5年度雇用均等基本調査」(厚生労働省)における「育児休業者割合」を参照。

● 退職金(確定拠出年金)の状況

	対象者数
A区分*2	139人
B区分*2	14人
合計	153人

1 エネルギー・水の使用量

数値は、全キャンパスの年間合計使用量を記しています。

	当年度（前年度）	前年度比
ガスの使用量	29,728 m ³ （30,969 m ³ ）	95.9%
電気の使用量	1,099,926 kWh（1,046,403 kWh）	105.1%
水の使用量	15,624 m ³ （16,614 m ³ ）	94%

2 はいせつ排泄ケア用品の使用枚数

数値は、年間合計使用枚数を記しています。稼働率およびパートナーの状態にあわせて、排泄ケア用品の使用枚数は変動しますが、尿取りパッドについては前年度に比べて約1,300枚の削減につながっています。

拠点	事業所	おむつ	リハビリパンツ	尿取りパッド
萩の風キャンパス	特別養護老人ホーム	11,828 枚	8,376 枚	66,150 枚
	地域密着型特別養護老人ホーム	4,320 枚	5,360 枚	48,446 枚
六郷キャンパス	地域密着型特別養護老人ホーム	3,564 枚	2,736 枚	29,520 枚
法人全体		19,712 枚	16,472 枚	144,116 枚

1 事故の発生状況

2024年度に発生した事故373件のうち、事故レベル5以上の件数は6件でした。2025年度の事故は324件のうち、事故レベル5以上は11件と、事故件数は減少していますがレベル5の事故が増加しています。レベル6の事故はありませんでした。

● 事故の発生状況

拠点	事業所	事故レベル1	事故レベル2	事故レベル3	事故レベル4	事故レベル5	事故レベル6
萩の風キャンパス	特別養護老人ホーム	72 件	21 件	7 件	2 件	2 件	0 件
	地域密着型特別養護老人ホーム	88 件	6 件	5 件	0 件	3 件	0 件
	共生型デイサービスセンター	12 件	0 件	0 件	0 件	2 件	0 件
六郷キャンパス	地域密着型特別養護老人ホーム	43 件	30 件	1 件	0 件	0 件	0 件
	共生型看護多機能センター	7 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
	保育園	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
幸町キャンパス	グループホーム	18 件	0 件	1 件	0 件	4 件	0 件
	共生型多機能センター	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
霞目キャンパス	就労支援センター	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
合計		240 件	57 件	14 件	2 件	11 件	0 件

● レベル5以上^{*1}の事故の内訳

骨折	誤嚥	その他	合計
1 件	0 件	1 件	2 件
3 件	0 件	0 件	3 件
2 件	0 件	0 件	2 件
0 件	0 件	0 件	0 件
0 件	0 件	0 件	0 件
0 件	0 件	0 件	0 件
4 件	0 件	0 件	4 件
0 件	0 件	0 件	0 件
0 件	0 件	0 件	0 件
10 件	0 件	1 件	11 件

^{*1}レベル5以上の事故件数のうち、レベル6の事故件数は0件。「その他」の1件は、転倒による頭部外傷によって入院を伴ったもの。

[各事故レベルについて]

事故レベル1：経過観察
事故レベル2：誤嚥（ごえん）／施設内で看護師の処置が必要になった
事故レベル3：行方不明／医療機関への受診が必要になった／受診の結果、縫合や固定等の処置は必要なかった

事故レベル4：検査の結果、全治14日未満（見込み）の縫合や固定等の処置や入院が必要になった
事故レベル5：全治14日以上（見込み）の治療や入院が必要となった／事故の結果、障害や後遺症が残った
事故レベル6：事故により死亡となる（現疾患の自然経過によるものを除く）

2 虐待および身体拘束の状況

● 虐待の状況

高齢者・障害者虐待防止法に定める「虐待の疑いがある」と判断して、市町村へ通報した事案はありませんでした。

● 身体拘束の状況^{*1}

身体拘束を行った事案はありませんでした。

拠点	事業所	実施人数	実施述日数
萩の風キャンパス	特別養護老人ホーム	0 人	0 日
	地域密着型特別養護老人ホーム	0 人	0 日
六郷キャンパス	地域密着型特別養護老人ホーム	0 人	0 日
幸町キャンパス	グループホーム	0 人	0 日

^{*1}当法人では原則として身体拘束は行いませんが、下記の「緊急やむを得ない場合」の3要件に該当する場合は、身体拘束を行うことがあります。

「緊急やむを得ない場合」の3要件
① 切迫性：利用者やほかの利用者の生命や身体に危険が及ぶ可能性が高い場合
② 非代替性：身体拘束以外に代替する介護方法がない場合
③ 一時性：身体拘束は一時的なものである場合
※「緊急やむを得ない場合」の3要件とは、高齢者虐待防止法および介護保険法に関連する法律やガイドラインによる、主に介護や医療の現場で身体拘束を行う際の正当化要件法による。

3 感染症等の集団感染状況

感染症法に定める1類から3類の感染症について、施設内での発生、および10人を超える感染症の発生はありませんでした。

拠点	事業所	感染者数 ^{*1}
萩の風キャンパス	特別養護老人ホーム	0 人
	地域密着型特別養護老人ホーム	0 人
	共生型デイサービスセンター	0 人
六郷キャンパス	地域密着型特別養護老人ホーム	0 人
	共生型看護多機能センター	0 人
	保育園	0 人
幸町キャンパス	グループホーム	0 人
霞目キャンパス	就労支援センター	0 人
合計		0 人

^{*1}「感染者数」は、事業所で感染対策警戒レベルを上げ対応に至った数を反映。

4 労働災害の状況

厚生労働省の定義にもとづき、スタッフが業務遂行中に業務に起因して受けた業務上の災害（業務上の負傷、業務上の疾病および死亡）を報告します。

拠点	事業所	件数	職種	災害種別	主な被災内容
萩の風キャンパス	特別養護老人ホーム	1件	看護	労働災害	敷地内を移動中、傾斜につまずき転倒し、右膝を裂傷した。
	地域密着型特別養護老人ホーム	2件	介護	労働災害	2件ともパートナーの誘導や移乗などの介護で、腰を痛めた。

5 関連当事者との取引の内容

開示対象となる関連当事者との取引（関連当事者で行った取引で、法人全体で年間合計1千万円を超えるもの）に該当しませんが、以下の取引について公表します。

● 関連当事者との取引について

種類	法人の名称	所在地	事業の内容	議決権の所有者とその割合	取引内容	取引金額
役員または評議員およびそれらの近親者が、議決権の過半数を有している法人	合同会社Live研究所	宮城県仙台市	不動産業 清掃管理	田中伸弥（100%）	職員宿舍賃貸・清掃管理	7,850,000円
					就労支援センター 清掃管理業務受託	3,392,000円
役員または評議員およびそれらの近親者が、議決権の過半数を有している法人	株式会社農業耕社ライフ	宮城県仙台市	農作物の生産 加工販売	当法人（10%） 田中伸弥（30%） 菅原篤人（20%）	農作業場賃料 農機具使用料	4,800,000円
					農作・耕作物の生産 加工販売業務受託	960,000円

※ 取引条件および取引条件の決定方針等：理事会において「特別の利害関係を有している理事」は、当取引に関する議案の審議および決議に参加していません。

財務情報

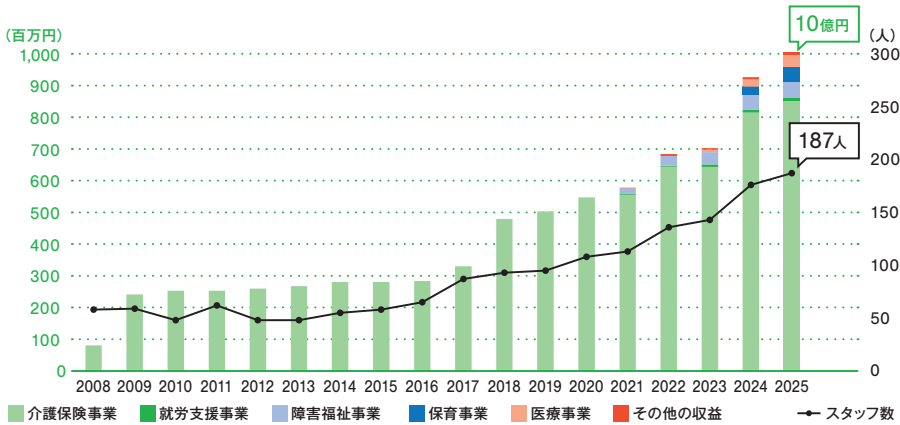
1 財務ハイライト

- 法人全体での当期サービス活動収益額は1,001,068,781円。前年度比74,415,627円増。
- 介護保険事業における地域密着型特別養護老人ホーム（六郷キャンパス）の稼働率向上により、前年度比で約12,300,000円増。
- 介護保険事業における共生型看護多機能センター（六郷キャンパス）の稼働率向上により、前年度比で約16,000,000円増。
- 介護保険事業における共生型多機能センター（幸町キャンパス）の年度途中の開設により、前年度比で約8,000,000円増。
- 保育事業において、稼働率の安定により前年度比で約22,700,000円増。

- 仙台市介護サービス基盤整備促進事業補助金（六郷キャンパスにおける非常発電装置）は、14,680,000円。
- 仙台市介護サービス基盤整備促進事業補助金（幸町キャンパスにおける開設準備経費）は、6,210,000円。
- 居住支援事業補助額は、2,950,000円。
- 宮城県外国人留学生支援事業費補助金は、2,160,000円。
- 仙台市福祉施設等物価高騰対策事業補助金は、全事業所合計で5,070,000円。
- 社会福祉充実残額の発生なし。

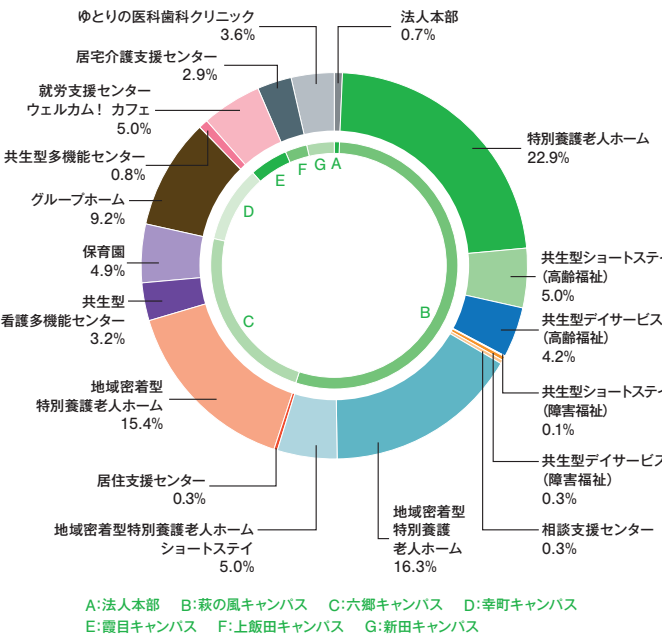
2 サービス活動収益とスタッフ数

ライフの学校の前身となる社会福祉法人ウエル寿会を2007年に設立し、2008年より介護保険事業を開始しました。2020年に社会福祉法人ライフの学校に名称を変更して以降、多事業を展開しています。

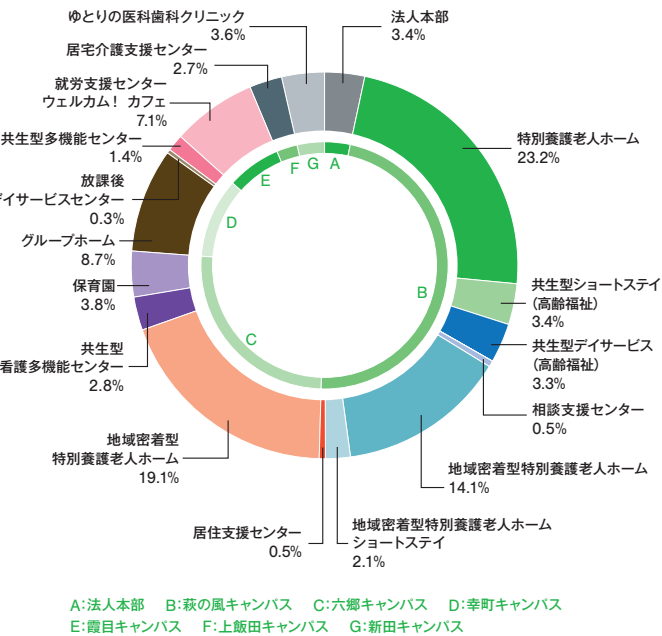


3 収益内訳

● サービス活動収益



● サービス活動費用



4 資金収支計算書

(単位:円)		
事業活動による収支		
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入
		老人福祉事業収入
		保育事業収入
		障害福祉サービス等事業収入
		生活保護事業収入
		医療事業収入
		就労支援事業収入
		経常経費寄附金収入
		受取利息配当金収入
		その他の収入
		事業活動収入計(1)
		1,017,732,195
事業活動による収支	支出	人件費支出
		事業費支出
		事務費支出
		当期就労支援事業製造原価支出
		利用者負担軽減額
		支払利息支出
		その他の支出
		事業活動支出計(2)
		937,859,272
		事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)
		79,872,923
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入
		施設整備等寄附金収入
		設備資金借入金収入
		固定資産売却収入
		その他の施設整備等による収入
		施設整備等収入計(4)
		15,236,949
	支出	設備資金借入金元金償還支出
		固定資産取得支出
		固定資産除却・廃棄支出
		ファイナンス・リース債務の返済支出
		その他の施設整備等による支出
		施設整備等支出計(5)
		79,923,267
		施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)
		△ 64,686,318
その他の活動による収支	収入	長期運営資金借入金収入
		役員等長期借入金収入
		長期貸付金回収収入
		投資有価証券売却収入
		積立資産取崩収入
		事業区分間繰入金収入
		拠点区分間繰入金収入
		サービス区分間繰入金収入
		その他の活動収入計(7)
		31,282,524
	支出	長期運営資金借入金元金償還支出
		役員等長期借入金元金償還支出
		長期貸付金支出
		投資有価証券取得支出
		積立資産支出
		事業区分間繰入金支出
		拠点区分間繰入金支出
		サービス区分間繰入金支出
		その他の活動による支出
		100,000
		その他の活動支出計(8)
		16,474,000
その他の活動による収支	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)
		14,808,524
		予備費支出(10)
		0
		当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)
		29,995,129
		前期末支払資金残高(12)
		167,291,136
		当期末支払資金残高(11)+(12)
		197,286,265

5 事業活動計算書

(単位:円)		
サービス活動増減の部		
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益
		老人福祉事業収益
		保育事業収益
		障害福祉サービス等事業収益
		生活保護事業収益
		医療事業収益
		就労支援事業収益
		経常経費寄附金収益
		その他の収益
		サービス活動収益計(1)
		1,001,068,781
サービス活動増減の部	費用	人件費
		事業費
		事務費
		当期就労支援事業製造原価費用
		利用者負担軽減額
		減価償却費
		国庫補助金等特別積立金取崩額
		その他の費用
		サービス活動費用計(2)
		961,221,593
		サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)
		39,847,188
サービス活動増減の部	収益	受取利息配当金収益
		有価証券売却益
		投資有価証券売却益
		積立資産評価益
		その他のサービス活動外収益
		サービス活動外収益計(4)
		16,566,405
サービス活動増減の部	費用	支払利息
		有価証券売却損
		投資有価証券売却損
		積立資産評価損
		その他のサービス活動外費用
		サービス活動外費用計(5)
		14,973,597
		サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)
		1,785,950
サービス活動増減の部	収益	施設整備等補助金収益
		施設整備等寄附金収益
		固定資産売却益
		サービス区分間固定資産移管収益
		その他の特別収益
		特別収益計(8)
		15,236,949
サービス活動増減の部	費用	基本金組入額
		固定資産売却損・処分損
		国庫補助金等特別積立金積立額
		サービス区分間固定資産移管費用
		その他の特別損失
		特別費用計(9)
		100,000
		特別増減差額(10)=(8)-(9)
		△ 100,000
サービス活動増減の部	繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)
		200,392,687
		当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)
		241,925,825
		基本金取崩額(14)
		0
		その他の積立金取崩額(15)
		0
		その他の積立金積立額(16)
		0
		次期繰越活動増減差額(17)=(13)+(14)+(15)-(16)
		241,925,825

6 貸借対照表

(単位:円)

資産の部		負債の部	
	当年度末		当年度末
流動資産	215,617,373	流動負債	102,179,409
現金預金	104,120,334	事業未払金 1 年以内返済予定	14,357,300
事業未収金	95,020,100		
未収補助金	2,319,000	設備資金借入金 1 年以内返済予定	60,484,000
貯蔵品	6,086,066	長期運営資金借入金	17,479,000
立替金	770,515	預り金	0
前払金	91,898	職員預り金	973,808
前払費用	6,699,120	仮受金	3,000,000
仮払金	500,000	賞与引当金	5,885,301
その他の流動資産	10,340		
固定資産	2,008,135,450	固定負債	1,244,112,000
基本財産	1,888,965,873	設備資金借入金	1,073,905,000
土地	268,783,681	長期運営資金借入金	170,207,000
建物	1,617,182,192	負債の部合計	1,346,291,409
建物	2,097,316,572	純資産の部	
基本財産建物減価償却累計額	△480,134,380	基本金	154,460,500
基本財産特定預金	3,000,000	国庫補助金等特別積立金	481,075,089
その他の固定資産	119,169,577	その他の積立金	0
構築物	15,829,636	次期繰越活動増減差額	241,925,825
構築物	22,375,900	(うち当期活動増減差額)	41,533,138
構築物減価償却累計額	△6,546,264		
機械及び装置	34,664,640		
機械及び装置	42,543,757		
機械及び装置減価償却累計額	△7,879,117		
車輛運搬具	2		
車輛運搬具	5,787,538		
車輛運搬具減価償却累計額	△5,787,536		
器具及び備品	32,338,823		
器具及び備品	66,205,251		
器具及び備品減価償却累計額	△33,866,428		
ソフトウェア	356,400		
ソフトウェア減価償却累計額	△356,400		
投資有価証券	0		
出資金	100,000		
長期貸付金	25,677,476		
差入保証金	10,559,000		
		純資産の部合計	877,461,414
資産の部		負債の部	
	当年度末		当年度末
資産の部合計	2,223,752,823	負債及び純資産の部合計	2,223,752,823

7 主要な経営指標

当期は一定の事業運営基盤を維持したものの、収益性や財務安全性の面でさらなる基盤強化を進めています。高水準な経費率や借入金依存度などの財務負担を軽減し、中長期的な資金対応力を高めることが重要です。今後は、収支改善への取り組みを進める障害福祉事業や小規模多機能型居宅介護事業の稼働率・利用率向上に注力するとともに、人員配置の適正化や業務の効率化を徹底します。安定的なキャッシュフローの確保を通じて財務体質を改善し、持続可能な法人運営と地域社会への価値還元を目指します。

経営指標	参考指標*1	法人全体（前年度比）
人件費率	66.8%	59.0%（5.2% 減）
	事業収益に対する人件費の割合。事業に対して人件費がどの程度の負担をかけているかの指標。	
経費率	25.5%	31.2%（1.0% 減）
	事業費率と事務費率の合計。	
事業費率	15.0%	16.7%（1.1% 減）
	事業収益に対する事業費の割合。事業に対して事業費がどの程度の負担をかけているかの指標。低いほどよい。	
事務費率	10.5%	14.5%（0.1% 増）
	事業収益に対する管理費の割合。事業に対して事務費がどの程度の負担をかけているかの指標。低いほどよい。	
減価償却費比率	6.6%	7.5%（0.4% 減）
	事業収益に対する減価償却費の割合。低いほど収益性が高い。	
支払利息率	0.29%	1.3%（増減なし）
	サービス活動収益に対する支払利息の割合。低いほど収益に対して借入金の利息が少ないことを意味する。	
現預金対事業活動支出比率	3.8 か月	3.0 か月（1.9 か月増）
	事業活動支出（月平均額）に対する現金預金保有額の割合。3 か月以上は非常に安定している。2 か月程度は安定。1 か月程度は最低限の安全圏。	
流動比率	330.1%	236.7%（44.7% 増）
	流動資産を流動負債で割った数値。会社の短期的な安全性を判断するための指標。高いほどよい。200% 以上は非常に良好。150～200% は安定的。	
固定長期適合比率	82.7%	94.7%（1.0% 減）
	自己資本と固定負債の合計額に対して、固定資産の割合を示す数値。100% 未満だと健全だとされる。	
借入金比率	16.1%	59.5%（105.9% 減）
	借入規模が健全であるかをある程度見分けることができる指標。低いほど健全。合計借入金÷純資産の部。合計 100% 未満が健全（自己資本>借入金）。100～200% は要注意（借入依存がやや高い）。200% 超は高リスク（財務安定性に懸念）。	
債務償還年数	4.7 年	15.3 年（25.5 年減）
	有利子負債をキャッシュフローで何年で完済できるかという指標。低いほどよい。10 年未満は健全（望ましい）。10～15 年はやや注意。15 年以上は要改善。	
サービス活動増減差額比率（営業利益率）	1.82%	3.9%（6.7% 増）
	本業であるサービス活動収益そのものから得られた増減差額を示す指標。高いほど収益性が高い事業。	
経常増減差額比率（経常利益率）	2.05%	4.0%（6.9% 増）
	法人の経常的な活動による収益性を理解する上での基本的な指標。マイナスである場合、赤字であることを意味する。	
当期活動増減差額比率（最終利益率）	－	4.0%（4.0% 増）
	法人に残った最終的な利益の比率。	

*1「2024 年度社会福祉法人の現況報告書等の集約結果（平均値）」（独立行政法人福祉医療機構）を参照。

中期経営方針

中期経営方針（2024～26 年度）

ひらかれた依存関係をつくる

すべての人にとっての依存先の選択肢となり、お互いに助けあう社会をつくる。そのために、基本となる福祉事業を軸に、不動産事業と農林事業に着手し、経営基盤を強化しています。福祉事業を行うなかで生じた居住支援と農産物の生産・加工・販売をより充実させ、両事業と連携することで、より柔軟に一人ひとりの困難や地域の課題に対応していくことを目指します。そして、事業を多角化するからこそ、本分を忘れず、日々のケア（介護・看護・保育など）の技術を高めていきます。

2025 年度は、物価高騰に加え、新規事業の運営がまだ安定していないことから、苦しい経営局面が続きました。また、2020 年度以降の5 年間で4 拠点9 事業を開始し、事業が拡大したことで、人員体制の安定化が最優先課題として浮き彫りになりました。

中期経営計画の最終年となる2026 年度は、スタッフ同士が対話を通して「支えあって学びあう」土壌を構築します。一人ひとりが「納得」して働き続けられる環境を整え、全キャンパスでの定員充足と損益分岐点の達成、そして次世代リーダーの育成を通じて、ミッションである「すべての人の人生を豊かに」をチームで実現することを目指します。

事業方針

1 「働く人」を大切にし、
自発性を尊重する
組織風土を育む

- 説得ではなく「納得」を重視した、各種会議のあり方の見直し
- ICT の活用に加え、直接対話によるコミュニケーションの質の向上
- 次世代を担う若手リーダーの登用と、失敗を恐れず挑戦できる教育・研修制度の整備
- 外国籍スタッフの専門支援部署の設置と、多様なスタッフが活躍できる環境づくり

2 専門性の壁を越えた
「ひらかれた専門性」で
ケアの質を高め、標準化を図る

- 介護リーダー育成協会と連携した、多職種合同の対話型研修の実施
- 生成 AI やクラウドツールの活用による業務効率化と、現場負担の軽減
- 認知症ケア・看取りケアの指針改定と、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の推進

3 経営基盤の安定化と、
地域の困りごとを解決する
新たな役割をつくる

- 六郷・幸町キャンパスにおける早期の損益分岐点達成と、安定的な収支管理
- 空き家活用、林業、フリースクールの開設など、地域課題に応える新規事業の調査・検討
- 地域の防災拠点としての機能整備と、住民との共助体制による事業継続計画（BCP）の強化

1 人材育成と職場環境の整備

・「自前」の採用力強化

「脱・人材紹介会社」を掲げ、「スタッフが友人を誘いたくなる職場」を目指し、紹介制度の拡充を行う。また、法人のウェブサイトやSNSを通じて、現場のリアルを発信し、理念に共感する層へ直接アプローチする。

・多文化キャリア共創室（仮称）の設置

外国籍スタッフの専門支援部署を設置し、行政手続きや住居確保、生活習慣への適応を専任でサポートし、孤独感の解消とキャリア形成を伴走支援する。また、それぞれの出身地の文化や歴史に触れる場を設け、互いに学びあう土壌をつくる。

・教育体制の刷新

技術面を支える「チューター」と、精神面を支える「メンター」制度を導入し、新卒や若手が孤立しない伴走型の教育体制を整える。ICTによる効率化を図りつつ直接対話を重視し、管理職の「聞く力」の向上を図ることで、心理的安全性の高い組織風土を醸成する。

・処遇改善と福利厚生

住宅手当や資格手当の見直しを行い、兼務従事者の処遇も整理する。有給取得率100%を目標に掲げ、勤続年数に応じた「リフレッシュ休暇」の取得を推進するなど、ライフステージに応じた納得感のある制度へ改定する。

3 経営基盤の安定とDXの推進

・現場主導の経営改善

各拠点・事業ごとの収支を明確にし、全スタッフと財務情報を共有する。役職にかかわらず、現場から経営改善の提案を行える組織風土をつくり、全員で損益分岐点の早期達成を目指す。

・業務の合理化

生成AIの活用やマニュアルのクラウド化（Teachme Biz）を進め、事務作業の負担を軽減する。現場で形骸化した会議や不要な事務作業を各現場が洗い出し、管理者会議の直轄で廃止を決定する「やらないことリスト」を策定し、それによって生み出された時間をケアの質向上に充てる。

・寄付・公益活動の推進

決済システム「コングラント」を活用した寄付制度を推進する。地域からの信頼を基盤に、2年以内の特定税額控除対象法人の認定取得を目指し、社会福祉法人としての公益的な役割をさらに強化する。

2 生活支援・相談援助サービスの充実

・「ひらかれた専門性」の育成

介護リーダー育成協会と連携し、スタッフが職種の壁を越えて学びあう場を設ける。専門性の土台となる「人間性」を大切にする風土を築き、互いの領域をリスペクトしながら、一人のパートナー（利用者）を多角的に支えるチーム力を高める。

・相談援助技術の向上

「断らない相談支援」を掲げ、法人の全事業をワンストップでつなぐ相談体制を構築し、制度の枠組みからこぼれ落ちるような、相談者が抱える複雑な困難にチームで寄り添う。法人全体でのケース検討会による知見の共有を通じ、地域課題をいち早く拾い上げ、事業にいかすソーシャルワークの技術を高める。

・医療・終末期^{たん}ケアの強化

介護スタッフによる痰吸引の実施体制を整備し、医療的ケアが必要な方でも安心して暮らせる環境を整える。地域のクリニックと密接に連携してACPを推進し、最期までその人らしく過ごせる質の高い看取りケア体制を確立する。

4 地域社会との連携

・地域拠点の役割拡充

こども食堂や学習支援教室、駄菓子屋など、多世代が日常的に集い、頼りあえる居場所を各キャンパスで展開する。地域のニーズにあわせ、学用品販売やコミュニティスクールへの参画も積極的に行う。

・アウトリーチの実施

独居高齢者への安否確認を兼ねた配食サービスの検討や、フリースクール開設に向けた調査など、施設外の困りごとへ能動的にアプローチする。空き家を活用した居住支援を推進し、地域社会から孤立させない支援体制を構築する。

・防災協力体制の構築

地域自治会との防災協定締結や合同訓練を実施し、六郷キャンパスの「指定福祉避難所」の登録を行う。災害時でも専門的な支援を提供できる共助体制による事業継続計画（BCP）を地域とともに確立する。

スタッフインタビュー

Interview 1

こどもたちが世界を広げられる経験をつくる

佐藤朱音（放課後デイサービスセンター 管理者）



2026年2月にスタートした、当法人初の放課後デイサービスセンター。管理者を務める佐藤朱音が児童発達支援やこれからの展望について語ります。

さとう・あかね | 宮城県出身。大学で教育学を学び、幼稚園・小学校の教員免許を取得後、ねむの木学園へ就職。2年間の勤務を経て地元に戻り、放課後等デイサービスの指導員として5年ほど従事。児童発達支援管理責任者の資格を取得し、2025年に当法人へ入職。障害児の支援計画作成から支援までを担当している。

お年寄りのすぐそばで、こどもたちが過ごす場所

現在、幸町キャンパスの放課後デイサービスセンターには、どのようなお子さんがいますか？

小学校低学年を中心に、高校3年生まで10名が通っています。知的障害や発達障害がある、あるいは診断はなくても生活に困難さがあるなど、さまざまです。だいたい放課後15時から17時ごろまで、その日の体調や気持ちにあわせて過ごしています。おやつを食べたあと、知育玩具やブロック、塗り絵などで遊んだり、ダンボールで工作したり。外で遊ぶこともあれば、下の階にある共生型多機能センターに遊びにいったり、高齢のパートナー（利用者）さんたちのゲームに参加することもあります。

ライフの学校に入職したのは、ここならこどもたちにやってあげたかったことが実現できる、と夢が広がったからで

す。近年、放課後等デイサービスは需要が高まり、多くのこどもに利用してもらうことが優先され、そのなかで自分が思い描く支援ができないことがありました。でも、初めてライフの学校を見学したときに、一人ひとりにあわせたケアを重視していて、その自由な印象にひかれました。

障害のあるこどものいるご家庭では、外出に高いハードルを感じていることがあります。こどもたちの行動範囲を広げるには多くの目と手が必要だからです。そうした家庭や学校では難しい、こどもたちが世界を広げられる経験をつくれたら。スタッフみんなで企画を考えながら、少しずつ近所の公園や法人内の別のキャンパスにお出かけをしています。

児童発達支援を一貫して続けられていますが、原点にはどのような出会いがあったのでしょうか？

大学で出会った、障害児や特別支援教育を専門にしている恩師の影響が大きく、見学や実習を通じて障害のある人と

かかわる経験を積みました。卒業後に、ねむの木学園（日本初の肢体不自由児のための養護施設・特別支援学校）に

就職したのは、その先生の授業で知り、衝撃を受けたからです。「自分が経験してきた学校とは違う世界がある」と、勢いのままに、この分野に飛び込みました。

その後、より自由な支援ができる現場に就きたいと考えて、放課後等デイサービスの仕事に移りました。学校はカ

リキュラムに沿って進みますが、放課後等デイサービスは個別に支援の方針を考えていきます。こどもをカリキュラムにはめるのではなく、本人を中心に、保護者・学校・相談支援事業所など多くの人の思いが支援になっていく。そこに強くひかれました。

他者とかかわるための「引き出し」を増やす

新規事業の立ち上げを経て、開設から3か月が経ち、現場でいま感じていることはありますか？

人生で初めて「営業」を経験しました。小学校や相談支援事業所に電話でアポをとって、話を聞いてもらって。学校はこどもたちが一日の大半を過ごす場所なので、つながりをもてたのは大きな収穫でした。

一見すると困難を抱えているように見えないこどももたくさんいます。でも特有の場面では困難さが出てくる。成長して社会に出ていくと、さらに生きづらさを感じてしまう場面もあるかもしれません。

人によっては、自分の気持ちを言葉にできず、つい手が出たり、暴言をはいてしまったりすることがあります。本人

としては、何が嫌でそれをどう伝えていいかわからず苦しい。そのストレスをどう発散してよいかもわからない。そうしたときに、ここでは発散や解決のための「引き出し」を増やしてもらいたいと思っています。例えば、「泣きたいだけ泣いていいよ」と一人にしたり、スタッフがとことん思いの丈を聞いたり、散歩をしたり、音楽を聞いてみたり。切り替わるポイントは一人ひとり違うので、選択肢をたくさん用意するのがわたしたちの役目です。他者とかかわるための、自分なりのやり方を見つけてほしいと思っています。

ライフの学校ならではの環境について、どのように感じていますか？

こどもにとって、家族以外のお年寄りとかかわる機会は意外と少ないと思います。ただ「静かにしようね」と言うよりも、「下の階でおいちゃん、おばあちゃんが休んでいるから静かにしようね」と言うと、静かにしてくれることもあつ

て。こどもたちなりに何かを受け取っているように思います。こどもにとっても、お年寄りにとっても、多世代が自然に交わっていることが「当たり前」の風景になっていくといいなと思っています。

Interview 2

みんなが

「ライフの学校を支える一員」に

畠山待子（就労支援センター 管理者／相談支援センター 管理者）



はたけやま・まちこ → p.04

当法人初の女性役員であり、就労支援センター（就労継続支援B型）の立ち上げから携わっている管理者の畠山待子が、就労支援の現在地について語ります。

一人ひとりにあわせた仕事をつくる

就労支援センター（以下、就労）は2020年にスタートしましたが、どのような特徴があるのでしょうか？

老人ホームという施設そのものが「働く場所」であることが、大きな特徴です。高齢介護の現場では、シーツやタオルの洗濯、清掃などの介護資格はなくても担える周辺業務があります。それらをパートナー（利用者）に担ってもらうことで、就労場所の確保につながり、また介護スタッフがケアに専念できる時間を増やすことができます。

立ち上げから7年目の現在、10代から60代まで20名ほどの幅広い年代が登録しています。萩の風・六郷キャンパスでは洗濯や清掃、生き物のお世話をはじめ、庭のお手入れ、駄菓子の在庫管理、霞目キャンパスでのカフェ業務、みん

なの畑での野菜の栽培など仕事の種類がたくさんあり、複数のグループに分かれて働いています。ライフの学校では、業務ではなくパートナーを優先し、一人ひとりにあわせて「何をするか」を考えています。

見学や体験を通じて興味や得意分野などをヒアリングし、入職してからも「やりたいこと」「やりたくないこと」を確認しながら、少しずつ仕事の幅を広げていく。まずは経験してみ、あう・あわないと一緒に判断していく柔軟さを大切にしています。

「その人にあわせて仕事を考える」という方針には、どのような思いがあるのでしょうか？

わたしは高齢福祉の現場も長く経験しましたが、障害福祉はアプローチがまったく違います。高齢福祉だと、例えば「床ずれがあるからすぐマットを導入しよう」と、安全面から先回りする場面もありますが、障害福祉で最も大切なの

は「本人の意思決定」。たとえ部屋が汚れているように見えても、本人が「これでいい」と言えば、それを尊重する。ある研修先で「それは畠山さんが必要だと思っているだけで、本人はそう思っていないよ」と言われたことがあり、

自分の価値観を押し付けないことの難しさと深さを日々感じています。

本人の意思を尊重するからこそ、就労のパートナー一人ひとりを「自分たちが支える利用者」ではなく、「ともに働く人」

として向きあいたい。作業のノウハウをはじめ、社会に出て働く上で大事なことを伝えながら、スタッフも含め、ここにいるみんなが「ライフの学校を支える一員」であることを大切にしています。

現場の声を丁寧に聞き、経営につないでいく

パートナー一人ひとりと向きあうなかで、印象的なエピソードはありますか？

お昼休憩中にトイレにこもって、13時の作業開始に遅れてしまう方がいました。なぜだろうと思っていたら、どうやら自分の気持ちを整えているようなんです。そこで本人と話しながら、ホワイトボードに「何時から何時まではトイレ、何時からは作業」とスケジュールを可視化したんです。すると作業時間前にトイレから出て漫画を読み、13時ちょうどに席に座る習慣に変わっていききました。別のケースでは、以前はタオルだけを畳んでいた方が、ワイシャツも

畳むようになったことがありました。隣で何度もスタッフがワイシャツを畳んで、まねしてもらって。言葉で伝えるよりも、目で見た情報のほうがスッと入りやすい場合があるんですよね。

変化といえば、以前パートナーだった方がスタッフとして当センターで働いています。障害の当事者である彼がいることで、ほかのパートナーにとって精神面で大きな安心感につながっていると思います。

今年度は食事提供体制加算の導入（p.11）や、役員就任など大きな変化もありましたが、今後の展望はありますか？

いま、お菓子やパンを製造できるようカフェを一部改修し、キッチンカーで販売する準備を進めています。「接客は苦手でも裏方業務は好き」「立ち仕事はつらいけれど、お菓子づくりや袋詰めといった座り仕事は得意」という方もいると思います。多様な選択肢をもっておくことが、安心して通い続けられる場につながると考えています。

新しい事業に挑戦する一方で、おろそかにしてはいけないのは「目の前のケア」です。同じ障害の診断があったとしても、一人ひとりまったく違います。細やかな観察と対話から、「今日は腰が痛そう」「いつもより口数が少ないか

も」といった小さな変化を見逃さないように心がけています。そのためにも15名のスタッフの連携は欠かせません。なるべくざっくばらんに話せるような環境づくりを意識しています。

現場の連携を考えるなかで、法人全体を見る意識ももつようになりました。就労の仕事で、萩の風・六郷・霞目と3か所のキャンパスを回っているの、それぞれの困りごとに耳を傾けやすい立場にあります。スタッフとパートナー、一人ひとりの声を大切にしながら、現場の感覚を経営につないでいければと思っています。

Interview 3

一人ひとりが「誇り」をもって働けるように

田中伸弥（理事長）



たなか・のぶや → p.04

幸町キャンパスでの新規2事業立ち上げなど、新しい取り組みが続いたこの一年を振り返ります。

組織の「内側」を育てる思想と仕組み

2025年度はどんな一年でしたか？

今年も大きな変化のあった一年でした。2020年の法人名改称から、中長期計画として2025年度まで4拠点9事業を立ち上げ、外へひらいていくフェーズを走り続けてきました。その過程でスタッフに負担が集中し、離職率が全国平均値を大幅に上回ってしまったことを真摯に反省しています。

一方で、事業の拡大によって、スタッフもいっきに多様になりました。介護、看護、障害福祉、保育、児童発達支援など背景が異なるスタッフが増えるほど、それに対して居場所ができるパートナー（利用者）も増えていく。0歳から100歳まで、さまざまな人を迎え入れる準備がようやく整ったなという実感があります。

離職者が多く出てしまったとのことですが、何が問題だったのでしょうか？

意識が外に向きすぎて、面談が形式的になっていたと思います。新規事業が続くなかで、現場の不安や不満に耳を傾ける仕組みをつくれていませんでした。

そこで、新卒・キャリア（中途）採用を問わず、入職後の個別面談期間を3か月から1年に延長し、フォローアップを強化しました。組織規模が大きくなると経営層との距離が離れるため、従来のナナメの関係にとどまらず、入職後3年目までは理事長面談を半年に一度行うなど、経営層に直接現場の声を届ける機会を設けることも試んでいます。

また、誕生月の第3水曜日に、「誕生月研修」もはじめました。約200人が集う全体ミーティングでは、一人ひとりの発言が難しいため、この研修を通じてミッションや行動規範を確認し、最近考えていることについて少人数のグループで対話する場を設けており、「一年を振り返るいい機会になっている」という声が届いています。

介護記録システム「ケアコラボ」も引き続き法人全体で使用しています。同じ施設内にいるほかのパートナーの記録を横断して見られるため、保育士も高齢のパートナーの

ことを、生活相談員も子どもたちのことを把握できる。職種や役割で思考が分断されないよう、一つのシステムで支えあう文化を大切にしています。

こうした現在の組織づくりを考える上で指針になっているのが、歴史学者・藤原辰史さんの造語である「弱目的性」という言葉です。弱目的性とは、「目的をあえて強く設定せず、やんわりと複数の目的に目配せしながら大きく広く構えてみる」(『縁食論 孤食と共食のあいだ』ミシマ社、2020年)という意味。強固な目標や効率を追い求めるのではなく、多様な目的が共存し、予期せぬ関係や偶発的な価値を

生む。そんな組織でありたい。

どうしても人は、できないことに目がいきがちですね。でも、福祉とはできないことではなく、できることに着目して支援することではないでしょうか。一人ひとりの凸凹^{でこぼこ}を欠点ではなく資源として捉え、支えあう関係を組織文化として育む。課題解決よりも、既にあるよさを見つけて育て、スタッフ個人や組織、地域の豊かさへつなげていきたいと考えています。「すべての人の“人生”を豊かに」というミッションの「すべて」に、スタッフも含まれているということに、ようやく自覚的になってきました。

学校と家庭の間に立つ

共生型多機能センターと放課後デイサービスセンターを開設しましたが、いかがですか？

これまで駄菓子屋やこども食堂、学習支援教室などを通じて小・中・高校生とはかかわってきましたが、事業としてかかわらなければ、本当に必要な課題や支援は見えてこないと実感しました。

近年はプライバシーへの配慮から、小・中学校では家庭訪問は戸口訪問に切り替わっています。その子がどんな環境で暮らしているかを実際に見ることが重要であるにもかかわらず、それができない状況にある。もちろん場合によ



共生型多機能センターと放課後デイサービスセンターのパートナーがともに過ごしている様子。



元小学校の先生などが教える学習支援教室の様子。

りますが、学校は学校のことだけに集中する、といった役割の切り分けが進んでいることを感じます。また、わたしたちのような放課後等デイサービスの事業者と学校とのかかわりあいも、制度的にはほとんどありません。だからこそ、学校と家庭の間に立つのが、わたしたちの役割なのだと感じています。

例えば、学習支援教室では、毎週、ご家族と連絡帳でやりとりをしているんですね。学習支援教室の先生が今日やったことや気づきなどを報告し、ご家族が返事を書く。その連絡帳を学校の先生にも報告することで、みんなでこ

どもを見守っていける。三者が連携することで、それぞれの場所では見られない表情やよさが見つかり、困りごとと一緒に引き受けることもできる。最近では学年主任や担任の先生に学習支援教室の卒業式に来てもらうなど関係が深まり、「こんな子がいるんですけど、お願いできますか？」という連絡も届くようになりました。

共生型多機能センターや放課後デイサービスセンターも含め、人生のなかで必要なときに立ち寄れる場所を増やし、子どもたちにとっての依存先を広げていきたいと考えています。ここからがスタートだという気持ちです。

日々、当たり前にするべきことを積み重ねる

2026年度は、どのようにしていきたいですか？

ライフの学校のミッションを実現することは、簡単ではありません。それでも、意味のある仕事だと確信しています。賃金改定や柔軟な雇用形態の整備、福利厚生の実施などは大切ですが、これだけいろいろな人がいると、どうしたって「誰もが働きやすい」とは言い切れないのが正直なところ。しかし、いろいろな人がいてもいい場所があることは、社会にとって大事な選択肢の一つ。そうした場をつくっていることに、一人ひとりが「誇り」をもって働けるよ

うになることを目指しています。

そして、そのためにもケアの基本に立ち返ることが必要です。個別ケアとは何かを問い直しながら、介護に関しては、食事・入浴・排泄^{はいせつ}という三大介助をこれまで以上に丁寧に行う。食べこぼしをしたら着替えさせる、目やにを取る、こまめにおむつを交換するといった日々の当たり前のケアを徹底する。そうした積み重ねが、次のフェーズにつながっていくのだと考えています。

ご寄付のお願い

ライフの学校では、既存の福祉制度の枠組みを越えて、地域で必要とされる多様なニーズに対応していきたくと考えています。現在取り組んでいる事業を継続し、新たな福祉サービスを開発し続けるために、ご支援をよろしくお願いいたします。

1 サポーターになる

わたしたちの日々の現場を支えるサポーター制度です。ライフの学校と地域をつなぐ季刊紙『ライフの学校新聞』（年4回）と『統合報告書』（年1回）をお届けします。

年間
3,000円

2 プロジェクトを支援する

こども食堂

毎月開催しているこども食堂では、5,000円で約20名分の食事を用意することができます。現在こどもは1食50円ですが、今後は無料にしたいと考えています。

ライフの図書館

ライフの図書館は利用者登録をすれば誰でも使うことができます。現在、登録者は187名で、放課後の自習の場や学習支援教室にもなっています。1万円で高校・大学受験用の参考書を5～10冊購入することができます。

居住支援

家を借りるサポートが必要な住宅確保要配慮者のために、冷蔵庫やガスコンロなどの家電を購入することができます。必要なものはそれぞれ異なりますが、新品あるいは中古品で必要最低限の家電を買いそろえるには、1人あたり5～10万円が必要です。

1口
5,000円



1口
1万円



1口
5万円



3 使い道を指定せずに支援する

ご寄付の金額と使用用途を指定せずに支援することができます。こちらは、法人経営において必要な資金として使わせていただきます。

1口
自由

ご寄付総額 2,025,500円（2025年4月～26年3月）

総件数 114件

みなさまからのご寄付におおきに支えられています。
どうもありがとうございました！

寄付してくださった方々のお名前は、
ウェブサイトに掲載させていただいております。

ご寄付の方法

個人・法人の方

個人の寄付金が2,000円を超える場合は、確定申告で寄付金控除を受けることができます。確定申告の際には、当法人が発行する寄付金の「領収書」が必要となります。必要な方は、下記のお問い合わせフォームよりご連絡ください。受け付け後、1か月以内にお届けいたします。法人の場合は、税理士にご確認ください。

クレジットカードで

下記の専用ウェブサイトから簡単にお手続きが可能です（所要時間約5分）。

決済システム「Congrant」
<https://congrant.com/project/lifenogakkou/14929>



銀行で

下記の口座にて、ご寄付をお受けしています。

仙台銀行 沖野支店 普通 2281191
フク）ライフノガツコウ
社会福祉法人ライフの学校 理事長 田中伸弥

郵便局で

本書に同封の払込取扱票をお使いください。払込取扱票が必要な場合は、サポートセンターまでご連絡ください。

遺贈・不動産で

土地や建物、物品などによるご支援をしてくださる場合は、サポートセンターにご連絡ください。

ご寄付をいただいた方へのお礼の品

1万円以上ご寄付いただいた方には、ウェルカム！カフェの「ドリンクセット」をお贈りさせていただきます。オリジナルブレンドのコーヒー豆と煎茶、ほうじ和紅茶が入っています。就労支援センターのパートナーがつくったオリジナルラベルが貼られており、かれらが梱包や郵送も行っています。



お問い合わせ先

サポートセンター（法人本部）
担当：岡本 電話：022-369-3907

お問い合わせフォーム：
<https://gakkou.life/contact>



お知らせ

SNS

LINEでは、毎月15日ごろに今月のお知らせやレポートをお送りしています！
また、各種SNSにて、現場のスタッフがライフの学校の日常を発信しています。



ライフの学校


LINE


Instagram


Facebook


X

ウェルカム！ カフェ


Instagram


Facebook


X

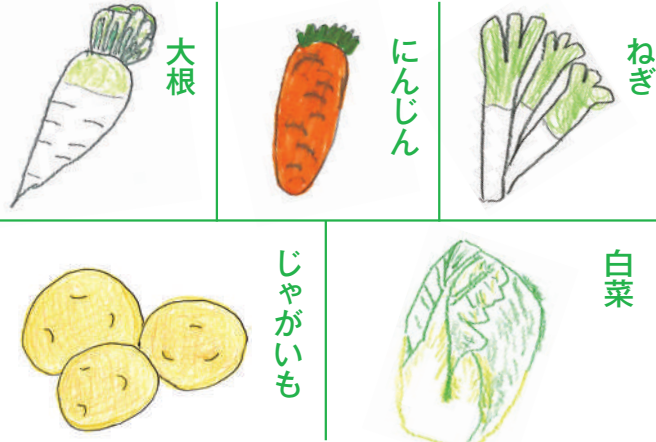
季刊紙『ライフの学校新聞』

わたしたちと地域をつなぐ「まちの新聞」を発行しています(年4回)。
各キャンパスのほかにも、町内会や近隣の小中学校でも配布。
ウェブサイトでは、PDFを公開中です。



みんなの畑

「みんなの畑」でパートナーが育て、収穫した野菜は、
萩の風・六郷・霞目キャンパスにて不定期で販売しています。
下記は、2025年度にみんなの畑でとれた野菜です。



ライフの学校 統合報告書 2026

発行：2026年6月30日

企画	ライフの学校 運営企画室
編集・執筆	川村庸子、佐藤恵美
デザイン	阿部航太
写真	植本一子、阪本 勇
イラストレーション	佐藤文昭+米川英利+安川 皓+渡辺果南+遠藤勝儀+ 守 安里沙(ライフの学校)
校正	株式会社聚珍社
印刷	株式会社ライブアートブックス

社会福祉法人ライフの学校
〒984-0838
宮城県仙台市若林区上飯田字天神 1-1
サポートセンター(法人本部)
電話：022-369-3907 <https://gakkou.life>
© 2026 社会福祉法人ライフの学校

※営利・非営利問わず、本書のコンテンツを許可なく複製・転用・販売などの
二次利用することを禁じます。



